

2015年7月期第2四半期決算説明会（要旨）

2015年3月10日 10:00～
東京証券会館

代表取締役社長 梅森

◆事業環境（説明会資料 スライド2,3）

経済産業省の生産動態統計確報によりますと、平成26年1月から平成26年12月までの生産金額は、前年比5.5%増となっています。四半期の生産金額は400億円を超えており、高水準の状況が続いています。一方、生産台数は、前年比3.3%減となり、減少傾向となっています。

包装機械業界の環境は、昨年1月に施行された『生産性向上設備投資促進税制』の効果や更新需要の回復等により、国内の設備投資需要は好調に推移しています。輸出は、円安を追い風に増加基調であります。業界全体の平成26年度の実績は、前年度から増加し、4,000億円を越える見通しであります。当社につきましては、機械受注高は前年同期を下回りましたが、自社機品目の受注高は、前年同期比約3割増となりました。また、機械受注残高も、過去最高の水準となっています。売上高は、上期は計画を下回りましたが、下期は計画を大幅に上回り、通期では3期連続で過去最高となる見通しです。海外市場向けにつきましては、上期売上高は前年同期を下回りましたが、アジア市場向けの受注が好調で、通期では大幅に増加する見通しです。

◆2015年7月期第2四半期決算概況（説明会資料 スライド5～16）

売上高は、販売台数の増加などにより、1億6千9百万円の増収となりました。経常利益増減要因につきましては、売上増加による利益増と売上総利益率の回復による利益増に対して、販売管理費がほぼ前期並みになったことから、経常利益は9千8百万円の増益となりました。期初予想に対しては、売上時期が第3四半期にずれ込んだことから、2億4千1百万円の減収、6百万円の減益となる結果となりました。

給袋自動包装機の販売台数が大幅に増加したことから、売上高は前年同期比8.5%増収となりました。売上総利益につきましては、売上高の増加により、前年同期比9千5百万円の増加となりました。売上総利益率は、前年同期比2.4ポイント改善しました。販売管理費は、ほぼ前年同期並みであったことから、経常利益は、前年同期に対して9千8百万円の増益となりました。四半期純利益については、ほぼ計画通りで、前年同期に対して6千7百万円の増益となりました。

品目別にご説明すると、給袋自動包装機では、販売台数が大幅に増加したことから、前年同期比5億1千4百万円の増加となりましたが、製袋自動包装機では、販売台数が減少したことから、前年同期比2億4千2百万円の減少となりました。包装関連機器では、高額のパッケージシステムが減少したことから、前年同期比2億8百万円の減少となりました。この結果、機械売上高は6千3百万円の増収となりました。保守消耗部品その他では、前年同期比1億5百万円の増加となりました。なお、計画に対しては、機械売上高は、高額案件で繰越が複数発生したことから、3億2千3百万円の減少となり、保守消耗部品は、高額案件が増加したことから、8千1百万円の増加となりました。

当社の四半期売上高につきましては、大型案件の有無、高価格機種の販売台数により、大きく変動する傾向にあります。また、販売台数についても、中小型案件の件数の増減により、ご覧の通り大きく変動しております。自社で設計・製造している機械の販売台数は、前

年同期比 32 台増加し、売上高は、前年同期比 2 億 7 千 2 百万円の増加となりました。今後については、第 3 四半期の売上高が大幅に増加する見通しであります。

売上高をエンドユーザーの業種別にみると、食品業界向けの売上高は、ほぼ前期並みとなりました。下期につきましては、大型案件が増加することから、上期より増加する見通しです。化学関連業界向けの売上高は、医療分野向けの実績が増加したことから、前年同期に比べて 142.2%の増加となりました。下期は、高額案件が無いことから、上期より減少する見通しです。その他業界向けの売上高は、販売台数が減少したことから、前年同期に比べて 47.3%の減少となりました。下期は、上期より増加する見通しです。下期見通しについては、全体としては、上期より大幅に増加する見込みであります。

また、売上高を国内と海外市場別にご説明すると、国内市場向け売上高は、販売台数が増加したことから、前年同期比 1 億 6 百万円の増加となりました。下期は、上期に対して、横ばいの見通しです。海外市場向けの売上高は、販売台数は増加しましたが、高額案件が減少したことから、前年同期比 4 千 2 百万円の減少となりました。下期は、大型案件もあることから、上期より大幅に増加する見通しです。

海外市場向けの売上高について、さらに地域別でみると、アジア市場向けは、販売台数が増加したことから、前年同期より増加しました。欧米市場向けは、ペットフード向けが減少したことから、前年同期より減少しました。アフリカ市場向けは、今回、実績がありませんでした。部品については、前年同期より増加しました。この結果、全体の売上高は、前年同期より 9 百万円増加し、海外向け売上高比率は、12.1% となりました。下期については、アジア市場向けの増加により、全体として上期より大幅に増加する見通しです。

参考までに、海外の国別の納入実績は、緑色で記載しておりますアジア地域につきましては、今期の上期は、台湾の需要が増加したことから、合計で 8 台の実績となりました。黄土色で記載しております、欧州と北米・南米につきましては、前期まではペットフード向けの実績が中心であります。今期の上期は、種苗向けでアメリカ 1 台の実績でした。下期につきましては、中国、インドネシア、タイ、ベトナムの納入を予定しております。

機械の受注動向について、械の受注件数は、1 億円未満の件数増加により、全体として前年同期より 6 件の増加となりました。一方、1 億円以上の大型案件の受注件数は、前年同期より 3 件減少しました。下期につきましては、大型案件の需要は少ないもの、需要が好調な中型、小型案件の受注増加を目指していきます。

機械の受注高は、大型包装システムの受注が減少したことから、前年同期比 5 億 7 千万円の減少となりました。一方、期末受注残高につきましては、2014 年下期よりも増加して、25 億円を超える過去最高の水準となりました。下期の受注高につきましては、大型案件の確保と給袋自動包装機の増加を目指していきます。

高額保守案件の受注高の推移ですが、1 千万円以上の改造需要が減少したことから、受注高は前年同期より 3 千 8 百万円減少しました。受注残高につきましては、前年同期より 1 千 1 百万円増加となっています。下期につきましては、上期に対して増加する見通しです。

販売費及び一般管理費について、当上期につきましては、一部予算執行が下期に繰越したこともあり、前年同期並みとなりました。下期は、研究開発費等の増加により、前年下期より増加し、通期で前期より 10%超増加する見込みであります。

◆2015 年 7 月期通期業績見通し（説明会資料 スライド 18～21）

通期業績見通しにつきましては、業績動向を踏まえ、下期計画を上方修正しております。売上高計画については、上期の繰越分に加え、販売台数及び大型案件が増加することから、通期で期初計画から 6 億円増加する見通しです。販売管理費が期初計画より増加するものの、売上総利益が売上高増加に伴い、1 億 2 千万円増加することから、営業利益について

は、上期のマイナス分を下期でカバーして、通期では期初計画から 8 千 7 百万円増加する見通しです。

売上高は、前期比 5.1%増の 51 億円を見込んでいます。下期の主な取組みとしては、大型案件の納入と、海外向けの売上高の増加に取り組んでいく予定であります。売上総利益率につきましては、前期比 2.5 ポイント改善し、27.3%を見込んでいます。下期の主な取組みとしては、高粗利益機種の販売台数の増加に取り組んでいきます。販管費は、研究開発費及び人件費などが増加することから、前期比 12.6%増となる予定であります。この結果、経常利益率は 1.1 ポイント改善し、5.9%を見込んでいます。当期純利益は、前期比 3 千 9 百万円増の 2 億円を計画しております。

品目別売上高の下期の計画値は表の通りです。全体としては、通期は機械売上高、保守消耗部品その他とともに、増収となる見通しです。給袋自動包装機では、下期の売上高は前年下期を下回りますが、通期では前期を 4 億 3 千万円上回る見通しです。製袋自動包装機では、下期の売上高は前年下期を上回ることから、通期では、前期を 1 億 7 千万円程度上回る見通しです。包装機関連機器では、下期の売上高は大幅に増加するものの、前年下期を下回ることから、通期では前期を 4 億 3 千万円程度下回る見通しです。保守消耗部品その他では、通期では前期を 8 千万円程度上回る見通しです。

最後に、株主還元についてですが、中期配当政策につきましては、配当性向 50%または DOE 2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら、配当金の増加を目指していきたいと考えております。2015 年 7 月期の配当予想につきましては、前期から 2 円増配の 9 円を予定しております。

◆中期経営計画及び経営戦略の主な取り組み状況（説明会資料 スライド 23～32）

第 4 次中期経営計画は、海外市場での成長基盤構築の時期と位置づけて、ご覧の中期経営ビジョンを掲げています。中期数値目標につきましては、ご覧の表の通り、全ての項目について、第 3 次中計の最終年度である 14 年 7 月期の実績から増加させることを目標としております。

第 4 次中計の業績計画は、ご覧のグラフの通りであります。収益の安定化と拡大に注力し、経常利益で安定的に 2 億円以上を確保することを計画しております。第 1 期の 2015 年 7 月期は、先ほどまでご説明しましたように、グラフの通り修正しております。なお、第 2 期以降の数値については、今後の事業環境と業績動向を踏まえて、修正要否を検討していく予定であります。

国内市場の売上高につきましては、期初予想は、前期に大型案件が集中した反動減で 29 億円を見込んでいましたが、高額案件の受注が減少したことから、28 億 5 千万円になる見通しであります。海外市場の売上高につきましては、アジア市場の受注が増加し、大型案件も有ることから、期初予想の 6 億円から大幅に増加し、12 億円になる見通しであります。なお、翌期は、大幅増に対する反動減になる可能性があります。保守消耗部品の売上高につきましては、海外市場の受注が増加していることから、期初予想より 5 千万円増加する見通しです。

基本戦略につきましては、「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」であります。ご覧の図の様に、国内市場で安定的な売上高を確保しながら、海外事業を強化していく戦略であります。国内市場では、ソリューションビジネスの拡大に、海外市場では、中国・東南アジア市場の販売基盤の確立と海外市場向けの商品拡大に取り組んでいきます。また、国内市場の既存分野については、顧客関係の深化と新機種投入に取り組んでいきます。

また、基本戦略につきましては、さらに具体的な戦略を策定しております。ご覧の 1 番目から 5 番については、先のスライドでご説明した項目を具体化したものであります。これらの

戦略に対する取り組みを強化していきます。さらに、事業領域拡大のために、M&A やアライアンスを推進していきます。

また、基本戦略を実現していくための主な経営施策として、個別戦略を策定しています。ここでは、販売戦略と開発・技術戦略のみを記載しております。

販売戦略の中で、海外事業の強化につきましては、まず、海外営業部の増員による体制強化を実施しています。販売基盤の確立として、中国市場につきましては、今年の1月に、上海に代理店と併設して駐在員事務所を開所しました。また、3月には、代理店により、当社包装機を3台展示したショールームを青島に開設しました。今後、これらの拠点を活用して、中国市場の開拓をさらに強化していきます。東南アジア市場につきましては、タイ、インドネシア等の現地企業への提案活動により、新規販売チャネルの開拓に取り組んでいます。欧米市場につきましては、ペットフード用包装機の拡大に取り組んでいます。海外市場の新規顧客開拓の受注実績は、ご覧の表の通りであります。

ソリューションビジネスの拡大につきましては、今期スタートの8月に、人員を強化の上、システムソリューション部を新設し、顧客への周知活動とソリューション提案に取り組んでいます。高額システムの受注実績は、ご覧の表の通りで、今期の上期実績は、まだ2件に留まっていますが、周知活動等により、見込み案件数が増加してきていますので、下期に受注活動を強化していきます。なお、高額システムの一部は、資本業務提携先のワイ・イー・データのロボット応用システムを納入しております。

開発・技術戦略の取り組み状況ですが、開発テーマとしては、第4次中計では、メカトロモーション技術やコア技術、次世代包装機の開発など、シーズ中心の開発を推進しています。開発実績と販売台数は、ご覧の表の通りであります。今期の上期は、食品、酒造用の2機種を完成させて、2台の販売実績となりました。下期は、コーヒー、ペットフード用などで、3から4機種を完成させる計画であります。

研究開発費の推移につきましては、ご覧のグラフの通りであります。2015年7月期の売上高研究開発費比率は、4.9%を計画しております。

◆参考情報（説明会資料 スライド34～38）

包装機械業界全体の市場規模は、2013年度は約3,900億円程度で、需要先としては、食品部門が5割程度を占めています。このため、比較的安定した業界であります。当社は、粉末・顆粒・固形物等のドライ物の包装機械・システムに特化しております。また、高品質かつ難易度の高い包装分野を得意としています。競合先としては、同じロータリー式包装機メーカーである東洋自動機、古川製作所であります。

主要市場、主要ユーザーとしては、ご覧の図の通りであります。高品質、難易度の高い包装分野をターゲットとしております。販売経路としては、6割以上が直販ですが、各業界の上位を中心に営業活動をしております。

経営ビジョンとして、One stopで応えるソリューションカンパニーを掲げていますが、図の様に包装工程以外の分野についても、ソリューション力の強化に取り組んでいます。また、人員推移は表の通りであります。開発・技術部を中心として、継続的に人材の強化を図っています。

これからも、食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会的貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。